

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

朝鮮教育令及臺灣教育令審査報告

今御諮詢ノ朝鮮教育令及臺灣教育令ニ關シ
本官等審査委員ノ命ヲ受ケ客臘十四日以來數
次會同シテ之カ審議ニ從事シ其ノ間屢關係國
務大臣、朝鮮及臺灣ノ西總督其ノ他當局諸官ノ
辯明ヲ聽キ以テ本件二案ノ查覈ヲ遂ケタリ
抑現行朝鮮教育令ハ明治四十四年八月ノ制定
ニ係リ大正九年十一月一部ノ改正ヲ受ケタル
ニ止マル其ノ創定以來既二十年ノ歲月ヲ關シ
各般ノ情況漸ク推移セルニ加ヘテ最近ニ至リ

事態ノ變遷特ニ較著ナルモノアリ當局ニ於テ
ハ此ノ局面ニ適應スヘキ一施設トシテ右教育
令ニ相當ノ改訂ヲ施スノ必要ヲ認メ曩ニ朝鮮
總督ノ配下ニ臨時教育調査委員會ヲ設ケテ之
ニ諮問シ其ノ決議ヲ裁酌シテ茲ニ本件ノ改正
規程ヲ立案シタルモノナリ又現行臺灣教育令
ハ大正八年一月ノ制定ニ係リ爾來未タ多クノ
年所ヲ經ルニ至ラスト雖其ノ間事情ノ變轉看
過スヘカラサルモノアリ當局ハ此ノ情勢ニ照
シテ時要ニ適シ事宜ニ合セムカ爲右教育令ノ

改訂ヲ企テ之ヲ立案シタルモノ即チ本件ノ改
正規程ナリトス

本件ノ二案ハ孰レモ其ノ形式ニ於テ當該現行
規程ノ全部ヲ廢シテ之ニ代ハルモノニシテ其
ノ實質ニ於テモ亦幾多ノ重要ナル改修ヲ含ム
以下各改正案ノ梗概ヲ剖示シ傍ラ之ヲ現行規
程ニ對照シテ其ノ間ノ差異ヲ解説スヘシ

第一 朝鮮教育令

(一) 本令ハ朝鮮ニ於ケル内地人及朝鮮人ノ教
育ノ要綱ヲ規定スルモノトス(第一條)是レ

現行規程ヲ專ラ朝鮮ニ於ケル朝鮮人ノ教育ヲ定ムルモノナリシヲ一變シ劈頭先ツ内地人朝鮮人間ノ差別ヲ撤廢シテ兩者ノ教育ヲ同一勅令ノ下ニ規律スルノ主旨ヲ掲クルモノナリ

(二) 教育ノ種別ヲ普通教育、實業教育、專門教育、大學教育及師範教育トス本令ハ新ニ朝鮮人ニ大學教育ヲ為スノ途ヲ開キタルト朝鮮人ニ對スル師範教育ヲ整備シタルトニ於テ現行規程ニ改新ヲ加ヘタルモノナリ

三

(三) 内地人ノ普通教育ニ付テハ大體ニ於テ小學校令、中學校令及高等女學校令ニ準據ス(第二條)朝鮮人ニ普通教育ヲ為ス學校ヲ普通學校、高等普通學校及女子高等普通學校トスルコト現行規程ニ於ケルト異ナル所ナシ(第三條)本令ハ普通教育ニ在リテハ内地人ト朝鮮人トニ依リ學校ヲ區別スルヲ以テ原則ト為スモ特別ノ事情アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ内地人ハ普通學校、高等普通學校又ハ女子高等普

通學校ニ朝鮮人ハ小學校中學校又ハ高等女學校ニ入學スルコトヲ得ルモノトシ例外トシテ始メテ内鮮人共學ノ制ヲ認ム(第二十五條)而シテ兩種ノ學校ハ其ノ學科及程度ニ於テ相匹敵スルコトヲ期スルカ故ニ上級學校ノ入學資格ニ關シテハ普通學校、高等普通學校又ハ女子高等普通學校ノ卒業生ハ各之ヲ小學校、中學校又ハ高等女學校ノ卒業生ト看做ス旨ノ規定ヲ新設ス

(第十條)

(四) 普通學校ハ兒童ニ國民教育ノ基礎タル普通教育ヲ為スコトヲ目的トスルノ趣旨ニ於テ從前ト異ナル所ナク(第四條)其ノ修業年限ハ六年ヲ本則トシ土地ノ情況ニ依リ之ヲ五年又ハ四年ト爲シ得ルコト亦從前ニ同シキモ其ノ入學最低年齡ハ從前ノ八年ヲ下シテ六年ト爲シ新ニ本校ニ高等科又ハ補習科ヲ置クコトヲ得ルノ規定ヲ設ク

(第五條)

(五) 高等普通學校ハ男子ニ高等ノ普通教育ヲ

爲スヲ目的トスルノ趣旨ニ於テ従前ニ同
シキモ(第六條)其ノ修業年限ハ従前ノ四年
ヲ改メテ五年ト爲シ入學資格ハ従前ノ普
通學校第四學年ノ修了程度ヲ改メテ修業
年限六年ノ普通學校ノ卒業程度トス而シ
テ本校ニ補習科ヲ附置シ得ルコト従前ニ
異ナラサルモ本校ノ入學資格ヲ引上ケ其
ノ修業年限ヲ延長スルノ結果補習科ノ程
度ハ従来ニ比シ著シク昂騰セラルルモノ
ニシテ其ノ修業年限及入學資格ハ朝鮮總

督ノ定ムル所ニ依ルモノトス(第七條)

(六) 女子高等普通學校ハ女子ニ高等ノ普通教
育ヲ爲スヲ目的トスルノ趣旨ニ於テ従前
ト異ナラサルモ(第八條)其ノ修業年限ハ従
前ノ三年ヲ改メテ四年ト爲シ入學資格ハ
従前ノ普通學校第四學年ノ修了程度ヲ改
メテ修業年限六年ノ普通學校ノ卒業程度
トシ新ニ之ニ補習科ヲ附置スルコトヲ得
シメ其ノ修業年限及入學資格ハ朝鮮總督
ノ定ムル所ニ依ルモノトシ(第九條)従前ノ

技藝科ニ關スル規定ヲ廢止ス

(七) 普通學校、高等普通學校及女子高等普通學校ノ教科、編制、設備、授業料等ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ラシムルコト從前ト同趣ニシテ(第二十三條)右諸學校ハ官立、公立又ハ私立トシ其ノ公立又ハ私立ニ係ルモノノ設立廢止ニ付テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケシムルコト亦從前ノ如シ(第二十四條)

(八) 實業教育、專門教育、大學教育及師範教育ニ

在リテハ内地人ト朝鮮人トニ依リ學校ヲ區別スルコトナク内鮮人ノ共學ヲ以テ學制上ノ大趣旨ト爲ス而シテ大體ニ於テ實業教育ニ付テハ實業學校令ニ、專門教育ニ付テハ專門學校令ニ、大學教育及其ノ豫備教育ニ付テハ大學令ニ準據スルモノトシ(第十一條及第十二條)師範教育ニ付テノミ別段ノ條項ヲ存ス

(九) 師範教育ヲ爲ス為師範學校ヲ設ク(第十三條)從前内地人ノ師範教育ノ爲ニハ師範學

校ヲ置キタルモ朝鮮人ノ師範教育ハ僅ニ
官立ノ高等普通學校又ハ女子高等普通學校ニ
附置シタル短期ノ學科ヲ以テ之ニ充ツル
ニ止マリシカ故ニ本令ハ朝鮮人ノ師範教
育ニ付現行規程ニ比シテ改新ヲ加ヘタル
モノナリ

師範學校ノ學科ヲ別テ第一部及第二部
トシ第一部ハ小學校教員タルヘキ者ヲ第
二部ハ普通學校教員タルヘキ者ヲ養成ス
ルヲ以テ目的ト為シ各師範學校ニ兩部ヲ

置クコトヲ本則トシ特別ノ事情アル場合
ニ限り其ノ一方ノミヲ置クコトヲ得シム

(第十四條)

師範學校各部ノ修業年限ハ六年トシ普通
科五年演習科一年トシ女子ニ在リテハ修
業年限ヲ五年トシ普通科ニ於テ一年ヲ短
縮ス(第十五條)普通科ノ入學資格ハ尋常小
學校ノ卒業程度トシ演習科ノ入學資格ハ
普通科ノ修了程度又ハ中學校高等女學校
ノ卒業程度トス(第十六條)

師範學校ニハ特別ノ事情アル場合ニ於テ
特科ヲ附置シ又ハ特科ノミヲ置クコトヲ
得シメ(第十七條)特科ノ修業年限ハ三年又
ハ二年トシ其ノ入學資格ハ高等小學校ノ
卒業程度トス(第十八條)
師範學校ニ研究科又ハ講習科ヲ附置スル
コトヲ得シメ其ノ修業年限及入學資格ハ
朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ルモノトス(第十
九條)

師範學校ニ附屬ノ小學校及普通學校ヲ置

ク但シ特別ノ事情アルトキハ公立ノ小學
校及普通學校ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ
得シム(第二十條)

師範學校ノ教科、編制、設備及授業料等ハ朝
鮮總督ノ定ムル所ニ依ルモノトス(第二十
三條)

師範學校ハ官立又ハ公立トシ私立ヲ許サ
ズ(第二十一條)其ノ公立ニ係ルモノノ設立
廢止ニ付テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケシム
(第二十四條)

(十) 特別ノ事情アル場合ニ於テハ官立ノ高等普通學校又ハ女子高等普通學校ニ師範學校ノ第二部演習科又ハ講習科ヲ附置スルコトヲ得シム(第二十二條)

(十一) 本令中ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外私立學校特殊ノ教育ヲ為ス學校其ノ他ノ教育施設ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ラシムルコト從前ト同趣ナリ(第二十六條)

(十二) 本令施行ノ際現ニ存スル諸學校ニ付必要ナル經過規定ヲ設ク(第二十九條乃至第三十二條)

(十三) 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督ヲシテ之ヲ定メシム(第二十七條)而シテ當局ニ於テハ本年四月一日ヨリ之ヲ實施スルノ意向ナリ

ト聞ク

現行規程ニハ教育ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ忠良ナル國民ヲ育成スルコトヲ本義トシ時勢及民度ニ適合セシムルコトヲ期スヘキ旨ノ規定ヲ掲ケタルモ本令ニハ之ヲ存セス此ノ削除ノ理由トシテ當局ノ辯明スル所ハ教育勅語ノ旨趣ハ學校ニ於テ主要ノ

目的トスル德育ノ本義ニシテ内地ノ教育
勅令中ニモ之ヲ掲載セラレサルノミナラス
斯ノ如キ條項ヲ本令ニ存置スルトキハ往々
朝鮮人ノ反感ヲ買ヒ却テ統治ニ不利ヲ來ス
ノ虞アルカ故ニ寧ロ之ヲ削除スルヲ可トス
ト言フニ在リ

第二 臺灣教育令

(一) 現行規程ハ專ラ臺灣ニ於ケル臺灣人
育ヲ定メタルモノナルモ本令ハ臺灣ニ於
ケル内地人及臺灣人ノ教育ノ要綱ヲ規定

スルモノトス(第一條)此ノ改正ノ理由ハ朝
鮮教育令ニ於ケルト同一ナリ

(二) 教育ノ種別ヲ普通教育、實業教育、專門教育、
大學教育及師範教育トス即チ本令ハ現行
規程ニ比シ臺灣人ノ為ニ大學教育ヲ加ヘ
タルモノナリ

(三) 内地人ノ初等普通教育ニ付テハ大體ニ於
テ小學校令ニ準據ス(第二條)臺灣人ニ初等
普通教育ヲ為ス學校ヲ公學校トスルコト
現行規程ニ於ケルト異ナラス(第三條)而シ

テ特別ノ事情アルトキハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ内地人ハ公學校ニ、臺灣人ハ小學校ニ入學スルコトヲ得シム(第二十一條)又上級學校ノ入學資格ニ付テハ公學校ノ卒業者ハ之ヲ小學校ノ卒業者ト看做ス(第七條)

(四) 公學校ハ兒童ニ國民教育ノ基礎タル普通教育ヲ為スコトヲ目的トスルノ趣旨ニ於テ從前ト異ナル所ナク(第四條)其ノ修業年限ハ六年ヲ本則トシ土地ノ情況ニ依リ之

ヲ短縮シ得ルコト亦從前ニ同シキモ其ノ入學最低年齡ハ從前ノ七年ヲ下シテ六年ト為シ新ニ本校ニ高等科及補習科ヲ置クコトヲ得ルノ規定ヲ設ク(第五條)

公學校ハ現行規程ニ於テハ官立又ハ公立ニ限リタルモ本令ニ於テハ私立ヲ許シ總テ公學校ノ設立、廢止、教科、編制、設備及授業料等ニ關シテハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ルモノトス(第六條)

(五) 高等普通教育ニ付テハ内地人及臺灣人ヲ

通シ大體ニ於テ中學校令、高等女學校令及
高等學校令ニ準據ス(第八條)是レ高等普通
教育ニ於テ既ニ内臺人ノ共學ヲ趣旨トス
ルモノニシテ其ノ結果從前ノ高等普通學
校及女子高等普通學校ヲ改メテ中學校及
高等女學校ト為シ其ノ修業年限ニ於テ高
等普通學校ハ一年ヲ、女子高等普通學校ハ
二年又ハ一年ヲ加ヘ且其ノ設立ニ付官立、
公立ノ外私立ヲ認ムルコトト為ル

(六)實業教育、專門教育、大學教育及師範教育ニ

在リテハ内臺人ノ共學ヲ趣旨トシ大體ニ
於テ實業教育ニ付テハ實業學校令ニ、專門
教育ニ付テハ專門學校令ニ、大學教育及其
ノ豫備教育ニ付テハ大學令ニ準據スルモ
ノトシ(第九條及第十條)師範教育ニ付テハ
別段ノ條項ヲ存ス此ノ點ニ付注意スヘ
キ一事ハ現行規程ニ於テハ專門學校ハ官
立ニ限りタルモ本令ニ於テハ此ノ制限ヲ
廢シタルコト是レナリ

(七)師範教育ヲ為ス為師範學校ヲ設クルコト

從前ニ同シキモ(第十二條第一項)從前ノ師
範學校ハ臺灣人ニ對スル師範教育ヲ目的
トシ内地人ニ對スル師範教育ノ學科ヲ附
置スルニ過キサリシニ異ナリ本令ノ師範
學校ハ内地人ヲ別タス小學校教員及公學
校教員タルヘキ者ノ養成ヲ目的トス(同條第二項)
師範學校ノ學科ヲ別ケテ小學師範部及公
學師範部トシ各師範學校ニ兩部ヲ置クコ
トヲ本則トシ特別ノ事情アル場合ニ限リ
其ノ一方ノミヲ置クコトヲ得シム(第十三條)

師範學校各部ノ修業年限ハ六年トシ普通
科五年、演習科一年トシ女子ニ在リテハ修
業年限ヲ五年トシ普通科ニ於テ一年ヲ短
縮ス(第十四條)是レ從前豫科一年本科四年
ヲ以テ修業年限ト爲シタルニ比シ男子ニ
在リテハ修業年限ノ通計ニ於テ一年ヲ加
フルモノナリ而シテ普通科ノ入學資格ハ
從前ノ豫科ト同シク尋常小學校ノ卒業程
度トシ演習科ノ入學資格ハ普通科ノ修了
程度又ハハ學校高等女學校ノ卒業程度ト

ス(第十五條)

師範學校ニ研究科又ハ講習科ヲ置クコト
ヲ得シメ其ノ修業年限及入學資格ハ臺灣
總督ノ定ムル所ニ依ルモノトス(第十六條)
是レ従前師範學校ニ公學校教員講習科ヲ
附置スルコトヲ得ルニ止マリシニ比シ更
ニ學科ヲ整備スルモノナリ

師範學校ニ附属ノ小學校及公學校ヲ置キ
特別ノ事情アルトキハ公立ノ小學校及公
學校ヲ以テ之ニ代用スルヲ得シムルコト

従前ノ例ニ同シ(第十七條)

師範學校ハ現行規程ニ於テハ官立ニ限リ
タルモ本令ニ於テハ官立又ハ公立トシ(第
十八條)其ノ公立ニ係ルモノノ設立廢止ハ
臺灣總督ノ認可ヲ受クヘキモノトス(第十
九條第一項)而シテ師範學校ノ教科編制設
備及授業料等ニ関シテハ臺灣總督ノ定ム
ル所ニ依ラシムルコト従前ニ同シ(同條第
二項)

(ハ)特別ノ事情アル場合ニ於テハ官立又ハ公

立ノ中學校又ハ高等女學校ニ師範學校ノ
演習科又ハ講習科ヲ附置スルコトヲ得シ
ム(第二十條)是レ從前高等普通學校又ハ女
子高等普通學校ニ師範科ヲ附置スルコト
ヲ得シメタルノ例ヲ襲ヒタルモノニシテ
此ノ外現行規程ニハ官立又ハ公立ノ實業
學校ニ師範科ヲ附置スルコトヲ得ルノ條
項アルモ本令ニハ之ヲ存セス

(九) 本令中ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外
私立學校特殊ノ教育ヲ為ス學校其ノ他ノ

教育施設ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ
依ラシムルコト從前ニ異ナラス(第二十二條)

(十) 本令施行ノ際現ニ存スル諸學校ニ付必要
ナル經過規定ヲ設ク(第二十五條乃至第二
十七條)

(十一) 本令施行ノ期日ハ臺灣總督ヲシテ之ヲ定
メシム(第二十三條)而シテ當局ニ於テハ本
年四月一日ヨリ之ヲ實施スルノ意向ナリ

ト聞ク

現行規程ニハ教育ハ教育ニ關スル勅語ノ旨

趣ニ基キ忠良ナル國民ヲ育成スルコトヲ本
義トシ時勢及民度ニ適合セシムルコトヲ期
スヘキ旨ノ規定ヲ掲ケタルモ本令ニハ之ヲ
存セス此ノ改正ノ理由ニ關スル當局ノ辯明
ハ略々朝鮮教育令改正案ニ於ケルモノト同様
ナリ

更ニ朝鮮教育令及臺灣教育令ノ改正案ヲ對照
スルニ此ノ二令ハ當局ニ於テ彼此斟酌シテ立
案シタル所ニ係リ其ノ大體ノ結構ニ於テ相異
ナラサルノミナラス其ノ規定ノ條項ニ於テモ

亦相同シキ所少カラサルモ又兩者ノ間各特殊
事情ニ基キテ若干ノ差異ヲ存スル所アリ今
其ノ主要ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(一) 朝鮮ニ在リテハ初等及高等ノ普通教育ニ付
内鮮人ノ共學ヲ行ハサルニ臺灣ニ在リテハ
初等普通教育ニ付テハ内臺人ノ共學ヲ行ハ
サルモ高等普通教育ニ付テハ共學ヲ行フ朝
鮮ニ於テ高等普通教育ノ共學ヲ不可トスル
理由トシテ當局ノ辯明ニ係ル重ナル事項ハ
(イ) 内鮮人其ノ國語力ニ差アリ且歴史慣習思

想等ヲ異ニスルコト(四)兩者孰レモ一般ニ共
學ヲ欲セサルノ傾向アリ為ニ官公立學校ニ
於テ必ス共學ヲ行フトキハ勢ヒ私立學校ニ
赴ク者ヲ多カラシムルノ虞アルコト(ハ)兩者
ノ民度相同シカラサルヲ以テ其ノ學校ノ修
業年限ヲ一律ナラシムヘカラサルコト(ニ)兩
者共學ノ場合朝鮮人教員ヲシテ内地人生徒
ヲ教育セシムルトキハ國民思想ノ養成上遺
憾少カラス又多數ノ内地人教員ヲ採用スル
トキハ經費ノ増加ヲ來シ且一部ノ朝鮮人ノ

職業ヲ奪フノ結果ヲ生スヘキコト(ホ)從前内
地人學校ト朝鮮人學校トハ經費ノ負擔者ヲ
異ニスルカ故ニ今俄ニ兩者ヲ併合スルトキ
ハ經費負擔ノ關係ニ付紛糾ヲ生スヘキコト
等即チ是レナリ

(二)朝鮮ニ在リテハ高等普通教育ノ為高等學校
ヲ設クルコトナキニ臺灣ニ在リテハ大體高
等學校令ニ準據シテ高等學校ヲ設クルコトト
為セリ朝鮮ニ高等學校ヲ置カサル理由ハ當
局ノ説明ニ依レハ(イ)朝鮮一般ノ現況ハ未タ

此ノ程度ノ高等普通教育ヲ要求スルノ域ニ
達セサルコト(四)從テ強テ高等學校ヲ設クル
トキハ朝鮮ニ在リテハ或ハ其ノ卒業生ノ前
途ニ於テ顧慮スル所ナキ能ハサルコト(ハ)又
朝鮮ニ高等學校ヲ設クルトキハ内地トノ距
離遠隔ナラサル等ニ因リ專ラ入學ノ目的ヲ
以テ内地ヨリ渡來スル者ノ為ニ本校ヲ利用
セラレ且其ノ卒業生ハ相率ヒテ内地ノ大學
ニ赴クニ至ルノ惧アルコト(ニ)高等學校ノ制
ハ普通教育ニ内鮮人ノ共學ヲ認メサルノ主

義ニ照シ朝鮮ニ於テハ之ニ依リ難キコト(ハ)
朝鮮ニ於テハ大學設立ノ場合寧ロ先ツ大學
豫科ヲ置キテ大學教育ヲ整フルヲ妥當トス
ルコト等是レナリ

(三)朝鮮ノ普通學校及臺灣ノ公學校ハ共ニ修業
年限六年ヲ以テ本則ト為シ朝鮮ニ於テハ之
ヲ五年又ハ四年ニ短縮スルコトヲ得ルニ止
マルモ臺灣ニ於テハ之ヲ短縮スルノ限度ニ
付別段ノ規定ナシ是レ臺灣ニハ尚蕃人児童
ノ為修業年限四年未滿ノ公學校ヲ設クルノ

必要アルニ由ル

(四) 朝鮮ニ在リテハ師範學校ニ特科ノ制アルモ臺灣ニ在リテハ此ノ制ナシ特科ハ普通ノ學科ニ比シ卒業ニ至ル年限短ク速成ヲ目的トアル特殊ノ學科ニシテ朝鮮ニ於テ別段ノ必要アルニ由リ此ノ特例ヲ行ハムトスルモノナリ

(五) 朝鮮及臺灣ニ於テ特別ノ事情アルトキ高等普通教育ノ學校ニ師範學校ノ學科ノ一部ヲ附置スルコトニ關シ之ヲ附置スル學校ハ朝

鮮ニ在リテハ官立ノ高等普通學校又ハ女子高等普通學校トスルモ臺灣ニ在リテハ官立又ハ公立ノ中學校又ハ高等女學校トシ而シテ其ノ附置スル學科ハ朝鮮ニ在リテハ第二部演習科又ハ講習科トスルモ臺灣ニ在リテハ小學師範部若ハ公學師範部ノ演習科又ハ講習科トス是レ兩者ニ於ケル事情ノ不同ニ由ルモノナリ

(六) 朝鮮教育令ニ於テハ總督ハ準據法タル實業學校令、專門學校令及大學令ニ對シ特例ヲ設

ノルコトヲ得ル事項ヲ限定スルモ臺灣教育
令ニ於テハ總督カ右諸學校令及高等學校令
ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ得ル事項ニ付制
限ヲ附セサルコトトセリ

之ヲ要スルニ本案改正ノ主眼トスル所ハ形式
ニ於テ朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル内地人ト朝鮮人
又ハ臺灣人トノ學制ヲ併合統一シ實質ニ於テ
内鮮人又ハ内臺人ノ間ニ或ル範圍ノ共學ヲ實
行シ且朝鮮人又ハ臺灣人ニ對スル教育ノ程度
ヲ引上ケテ成ルヘク内地人ニ對スルモノト同

等ナラシムコトヲ期スルニ在リ而シテ朝鮮
又ハ臺灣ノ教育充實スルニ從ヒテ其ノ諸學校
ト内地ノ諸學校トノ間ニ連絡疏通ノ途開カル
ヘキハ固ヨリ當然ニシテ此ノ點ニ付テハ關係
當局ノ間ニ協議ヲ重ネツツアリト聞ク
按スルニ朝鮮及臺灣ニ於ケル教育施設ハ此等
地域ノ統治ニ關スル一大要義ニシテ兩教育令
案ハ即チ其ノ根本ノ制定ニ係リ素ヨリ重要ナ
ル法制ニ屬ス而シテ本官等ハ慎重ナル審査ヲ
為シタル結果此ノ二案ハ大體ノ趣旨ニ於テ非

議スヘキモノナク當局諸官ノ周密ナル注意ニ
由リ運用宜シキヲ制スルコトヲ得ハ其ノ成績
不可ナカルヘキモノト思料ス然レトモ其ノ規
定ノ條章ニ至リテハ多少ノ改訂ヲ加フルコト
妥當ナリト為スヘキ所ナキニアラス審査委員
會ニ於テ修正ヲ可トシタル事項及其ノ理由左ノ如シ
(一)二原案トモ内地人及朝鮮人又ハ臺灣人ノ稱
呼ヲ以テ兩者ヲ殊別シテ學校ノ系統ヲ規定
シタルハ必スシモ適當ナラス蓋シ斯ノ如キ
重要ノ法制ニ於テ民族ノ種別ニ依リ待遇ヲ

異ニスルカ如キ條項ヲ設クルハ兩者ノ一視
同仁ヲ以テ統治ノ要諦ト為スノ趣旨ニ合ス
ルモノニ非ス且兩者ハ相互ニ轉籍スルノ途
ナキニアラサルカ故ニ之ヲ以テ學校ノ系統
ヲ別ツヘキ的確ナル準繩ト為スコトヲ得ス
是レ修正案ニ於テ内地人ニ代フルニ「國語」ヲ
常用スル者ヲ以テシ「朝鮮人」又ハ「臺灣人」ニ代
フルニ「國語」ヲ常用セサル者ヲ以テスル所以
ナリ(朝鮮教育令第二條、第三條及第二十五條
臺灣教育令第二條、第三條及第二十一條)
(二)朝鮮人ノ女子高等普通學校ハ内地人ノ高等

女學校ニ該當スルモノナルモ朝鮮教育令ノ
原案ニ於テハ女子高等普通學校ハ高等女學
校ト異ナリ修業年限四年ニシテ六年ノ普通
學校ニ接續スルモノノ一種ニ限リタリ然レ
トモ内鮮人ノ學制ヲ統一スルヲ以テ大要ノ
主義ト為スニ拘ラス此ノ點ニ於テ斯ノ如キ
差異ヲ存スルノ避クヘカラサル理由ヲ解シ
難ク現ニ臺灣教育令ノ改正案ニ於テ臺灣女
子ニ内地ノ高等女學校ト同一程度ノ教育ヲ
為スノ制ヲ立テタルニ比シテ權衡ヲ失スル

ノ識ヲ免レサルハ且朝鮮女子ノ向學心ハ
將來益々増進シ更ニ高キ程度ノ教育ヲ要求
スルニ至ルヘキコト必然ノ趨勢ナルカ故ニ
寧ロ今日ニ於テ制度ノ上ニハ前記ノ差別ヲ
止メ高等女學校ノ例ニ倣ヒテ女子高等普通
學校ノ修業年限ヲ五年又ハ四年トシ尙土地
ノ情況ニ依リ三年ト為スコトヲ得シメ修業
年限五年又ハ四年ノモノハ六年ノ普通學校
ニ接續シ修業年限三年ノモノハ普通學校高
等科ニ接續スルモノト為スヲ可トス是レ第

九條ヲ修正スル理由ニシテ此ノ修正ニ關聯
シテ第十條ニ少許ノ修正ヲ加フ

(三)朝鮮教育令ノ原案ニ於テ師範學校特科ノ中
修業年限二年ノモノニ付テノミ特ニ其ノ入
學資格ノ最低年齡ヲ本令中ニ明記シタルハ
聊カ失當ノ嫌ナシトセサルニ由リ第十八條
第二項但書ヲ削除ス

(四)朝鮮總督又ハ臺灣總督力準據法タル内地ノ
學校令ニ對シ各其ノ地域特殊ノ事情ニ依リ
特例ヲ設クルコトヲ得ル旨ノ條項ハ此ノ二

令ノ原案ニ於テ相符合セサルモノアルモ特
ニ其ノ間ニ差異ヲ立ツルノ已ムヲ得サル理
由アルニ非ス且臺灣總督ニ於ケルモノハ其
ノ委任ノ權限廣キニ過クルノ感ナシトセス
仍テ兩者ノ規定ヲ適當ニ整理スルノ趣旨ヲ
以テ朝鮮教育令第十一條及臺灣教育令第十
一條ニ修正ヲ加フ

(五)朝鮮教育令第六條及第八條ノ高等普通學校
及女子高等普通學校ノ目的ニ關スル條項朝
鮮教育令第十六條及臺灣教育令第十五條中

ノ師範學校演習科ノ入學資格ニ関スル條項
竝朝鮮教育令第十八條第二項ノ師範學校特
科ノ入學資格ニ関スル條項ニ於テ字句ヲ轉
置増補シタルハ原案ノ趣旨ヲ明瞭ナラシメ
ムカ為ナリ

以上諸點ノ修正ハ畢竟原案ノ趣意ヲ一層推擴
シ且其ノ規定ヲ明確ナラシメムトスルモノニ
シテ内閣ニ於テモ之ニ異議ナキ旨ノ言明ヲ得
タリ

審査委員會ニ於テ本案審議ノ際特ニ希望ヲ述

ヘテ當局ノ深甚ナル考慮ヲ求ムルコトヲ可ナ
リト認メタル事項二點アリ其ノ要旨左ノ如シ
一凡ソ教育ノ效果ヲ完カラシムル為ニハ其ノ
施設ヲ充實スルト共ニ之ニ對シテ剴切ナル
監督ヲ施行スルコト當局ノ最モ意ヲ用フヘ
キ所ナリトス蓋シ教育ノ事タル諸般ノ基礎
ヲ為シ其ノ效力ノ著大ナルト共ニ若シ其ノ
方法等ヲ誤ルモノアルトキハ不測ノ弊害ヲ
醸成シ思想上影響ヲ及ホスコト尠少ニ非ス
這般朝鮮及臺灣ニ於ケル根本ノ學制ニ重要

ナル改正ヲ施シ自今益々其ノ教育ノ擴充ヲ
期圖セラルヘキカ故ニ新定ノ制度ヲシテ十
分ノ成果ヲ收メシメムカ為當局ニ於テ深ク
力ヲ學事ノ監督ニ致サムコト本官等ノ希望
ニ堪ヘサル所ナリ

(二) 今回朝鮮及臺灣ニ於テ大學ノ制ヲ認メ官公
私立大學ヲ設置スルコトヲ得ルノ途ヲ開キ
タル結果萬一中外人ノ經營ニ係ル不完全ナ
ル私立大學カ官立大學ニ先ミテ設立セラル
ルカ如キ事アラハ統治上ニ考ヘテ甚々憂フ
ヘキモノアラムコトヲ慎ル即チ當局ニ於テ
其ノ間ニ處スルノ措置ヲ誤ラサラムコト亦
本官等ノ切ニ希望スル所ナリ

審査委員會ニ於テハ前記ノ修正ヲ附シテ原案
ヲ可決スヘキ旨右希望事項ト共ニ決議シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

大正十一年一月十五日

審査委員長

樞密顧問官子爵濱尾 新

審査委員

樞密顧問官	安廣伴一郎
樞密顧問官子爵岡部	長職
樞密顧問官	一木喜徳郎
樞密顧問官男爵久保田	讓
樞密顧問官	富井 政章
樞密顧問官	平山 成信

樞密院議長公爵山縣有朋殿

大正十一年一月十八日

書記官長

主筆書記官 

書記官 

開港港則中改正ノ件

審査報告

謹于今回御諮詢、開港港則中改正ノ件、審査

スルニ從來山口縣徳山、愛媛縣今治及樺太真岡、